

令和5年度 第1回「大川の駅」整備推進協議会 議事録

日時：令和5年7月28日（金）14：00～

場所：大川市文化センター 小ホール

会員：別紙名簿のとおり

欠席者：小柳政彦 大川市漁協連絡協議会会長、村田茂男 福岡国道事務所技術副所長

1. 開会

2. 市長あいさつ

本日はお忙しい中に、また酷暑の中にも関わらず、「大川の駅」整備推進協議会にお集まりいただきありがとうございます。まず、先般の大雨により近隣の久留米市田主丸地区等において大変な被害が出ており、お見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧復興を願っています。

本日は任期代わりということで、ご参会の皆様には、協議会会員の委嘱をお願いしたところ、快くお受けいただき、心から感謝申し上げます。

さて、本日午前中に佐賀空港開港25周年の式典が開催されました。その式典の中で、佐賀空港は、25年前に目標を立てたが、全国の地方空港の中でも当初の目標をクリアしている数少ない空港であるとの話がありました。建設当初は、こんな田んぼの真ん中に空港を造って大丈夫かとの声が多く聞かれたが、当初の目標をはるかに超える多くのお客様を運ぶことができていると関係者皆さん喜ばれていました。さらに、佐賀県では滑走路500m延長を計画されており、航空会社関係者等も早期実現を望まれていました。

佐賀空港は25年で大きく成長してきましたが、さらにその4倍の筑後川改修100年のバッジを筑後川河川事務所よりお配りいただいています。我々の母なる大河筑後川は暴れ川でありましたが、先達のおかげで、特に下流域は堤防改修等を行っていただき安心して暮らすことができ、改めて感謝申し上げます。

有明海沿岸道路は、佐賀県側にも熊本県側にも延伸していただいています。25年前に佐賀空港ができたおかげで東京に素早く行くことができるし、100年前に筑後川の改修を始めていただいたおかげで安心して暮らすことができます。インフラ整備には時間がかかりますが、こういったインフラを活用していくことが、今を生きる我々の責任であると考えています。

開港式典の中で、有明海沿岸地域の代表的な企業の皆様方からの応援メッセージ動画がありましたが、まさに私の想いを凝縮したような内容で、例えば、大牟田からは化学、柳川からは観光、大川は家具業界、佐賀は鉄鋼、エネルギー、食品加工など、それぞれの立場からこの地域を盛り上げていくことのメッセージでありました。

私が「大川の駅」でやっていきたいのは、この地に根差した企業の皆様方が後世に渡って発展繁栄していく素地を造るための拠点とすることであり、「大川の駅」を核として、環有明海地域を盛り上げていきたいというのが一番であります。これまでは、福岡県、佐賀県、熊本県、県をまたいだ交流があまりなかったと思いますが、有明海沿岸道路の延伸に伴ってその絆がより深まっている今こそ、地域を盛り上げるための努力をしていかなければならないと思ったところであります。

今後、ハード整備が本格化する「大川の駅」の整備にあたっては、知恵を絞り、汗をかいていかなければならないと思っておりますので、国県の皆様には引き続きご指導ご鞭撻をお願いいたします。

また、「大川の駅」開業後は、本日、大川の経済界を代表する皆様に参加していただいておりますが、来ていただくお客様に、如何にして楽しんでいただくか、幸せになっていただけるかをみんなで考えていきたいと思っています。

今年度 4 月より森寿貴副市長を総務省から招聘して、「大川の駅」整備事業と「大川リビルディング事業」を担務してもらっています。氏は多くの人的ネットワークを持っており、先日は、台湾人向けの日本観光情報サイトの代表を大川にお招きしていただきました。このサイトでは、コロナ禍で渡航が制限されていた時期に、日本各地の道の駅と連携して産品を購入できる、日本語でいうと「おうちで道の駅」のようなサイトを立ち上げられています。

コロナ禍が落ち着いた今では、多くのインバウンドが日本を訪れており、特に台湾からの旅行者は都市部だけでなく地方にも多く来ているとのことで、「大川の駅」では、インターネット等も使ってインバウンド需要も視野に入れながら、この地域を盛り上げていきたいと考えています。先日、このようなことを県知事に申し上げたところ、地元の方も楽しめる場所にしないといけないのではないかと助言をいただきました。いわゆるモノを売るだけの道の駅ではなく、来れば何かが発見でき、何かと繋がって、価値を大きくしていけるような場所を造ってきたいと考えています。

「大川の駅」実現のためには、お集まりの皆様のご協力が不可欠ですので、引き続き皆様のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

3. 委嘱状交付 代表：大川商工会議所 会頭 津村 洋一郎

4. 協議会役員選出 会長：大川商工会議所 会頭 津村 洋一郎
副会長：大川観光協会代表理事 中島 聖知

5. 会長あいさつ

令和 2 年に「大川の駅」整備推進協議会の会長として指名を受けました。昨年はコロナ禍もあって会議は開催されませんでした。今回、令和 5 年より改めて協議会会長として指名を受けたので、よろしく申し上げます。大川市では、この「大川の駅」整備事業を担っていただくため、総務省より森副市長が招聘されました。先ほど倉重市長が想いを語られましたが、どのような「大川の駅」になっていくのか、これからが大事であります。残された時間は多くありません。あと 4 年間で色々な課題も出てくるかと思うが、この協議会会員の皆さんも一緒に知恵を出して、素晴らしい形で令和 9 年度中の開業を迎えたいと思います。

この目的を達するために、協議会会員の皆様の絶大なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

6. 議事

(1) これまでの経過について

(事務局説明) (質疑なし)

(2) 「大川の駅」実施計画について

(事務局説明) (質疑なし)

(3) 今後の予定について

(事務局説明) (質疑なし)

7. その他

国土交通省筑後川河川事務所より、VRによる「川の駅」整備イメージデモ及び筑後川改修 100 年のご案内。

(質疑なし)

8. 閉会

(閉会后)

福岡県南筑後県土整備事務所（オブザーバー）より、アクセス道路の進捗状況について発言あり。

現在の進捗状況であるが、アクセス道路の計画に伴い、現地の測量と設計を進めている。今年度については、道路建設に必要な用地測量を完了したいと考えている。皆様におかれましては、引き続き、用地取得等にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員（質問）：協議会の今後の開催スケジュールはどうなっているか。

市（回答）：現段階では、はっきりと決まっていないが、かわまちづくり計画の来年度の申請に向けて作り込みを行っているので、今年度中には策定状況の報告を行うことになると思う。また、事業の進捗状況の説明を行うため、今年度中にもう 1 回は開催したいと考えている。

会員（質問）：本日は 1 回目だったので、あまり意見がなかったが、会員の皆さんも色々な意見をお持ちだろうと思う。年度内にあと 1 回だと、なかなか理解することが難しいと思う。

市（回答）：会員の皆様は忙しい方ばかりなので、頻繁に一堂に会することは難しいと思う。団体ごとにコミュニケーションを取っていかなければならないと思っている。なお、市 HP に「大川の駅」で繋がるひと・まち・ものづくり」という表題で内容を一新している。このような形で情報発信も行っていきたいと考えているので、ぜひご覧いただきたい。

会長：協議会規約第 9 条に「協議会は必要に応じて会長が招集する」とある。事務局と協議して必要な時に開催したい。

以上

「大川の駅」整備推進協議会会員

協議会会員名	所属団体・機関等及び役職
会員 津村 洋一郎	大川商工会議所 会頭
会員 中島 聖知	(一社)大川観光協会 代表理事
会員 松田 洋一	大川商工会議所 副会頭
会員 前田 英治	(一財)大川インテリア振興センター 副理事長
会員 河口 健	(協)福岡・大川家具工業会 理事長
会員 橋爪 福寿	(協)大川家具商業会 理事長
会員 田中 宏幸	福岡大城農業協同組合 代表理事組合長
会員 小柳 政彦	大川市漁協連絡協議会 会長
会員 福永 寛	大川市スポーツ協会 会長
会員 高橋 一精	NPO法人 大川未来塾
会員 野田 見十之	大野島コミュニティ協議会 会長
会員 江頭 光郎	大野島地区「大川の駅」を盛り上げる会 委員長 夢の島プロジェクト 副会長
会員 村田 茂男	国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所 技術副所長
オブザーバー 龍 博文	国土交通省九州地方整備局有明海沿岸国道事務所 技術副所長
会員 松永 泰裕	国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所 事業対策官
オブザーバー 黒岩 一文	福岡県企画・地域振興部 市町村振興局長
オブザーバー 廣藤 祐史	福岡県商工部 工業技術センター インテリア研究所 所長
オブザーバー 牛島 善治	福岡県県土整備部 南筑後県土整備事務所 地域整備企画監
会員 森 寿貴	大川市副市長兼大川の駅整備振興課長
会員 内藤 妙子	大川市教育長